

# 市立小学校のプールの建設や維持管理費 関連の質疑を抜粋



**Q** どれくらいの費用が掛かっているのか伺います。

**A** プールは消毒に塩素を用いるため劣化が早く、10年から20年ごとの修繕を行った上で、耐用年数を40年程度と見込みましてこれまで整備を進めてきたところでございます。プールの建設費につきましては、1校当たり約1億8,000万円、水道代や清掃費、修繕費等の40年間の維持管理費につきましては、約1億4,000万円、合計で3億2,000万円となりまして、これを1年当たり換算いたしますと1シーズンに約800万円の経費を要していることとなります。

**Q** プールの使用は、夏期のごく限られた期間のみであります。費用対効果の面や現場にいらっしゃる教職員の負担を考えたとき、必ずしも全部の小学校にプールが設置される必要はなく、市内にある公共プールや民間企業の運営しているプールを活用した水泳授業を積極的に行っていくべきではないだろうか、と考えていますがいかがでしょうか？

**A** 令和5年度には12校が公共プールや民間プールを利用した水泳授業を行っております。公共プール等の利用につきましては、受入れ可能な施設が限られていることや、移動手段として利用いたしますバスの確保が難しいことなどの課題もありますが、学校からは、教職員の負担が軽減された、専門スタッフによるきめの細かい授業を受けられたなどの声があり、保護者や子どもたちからもおおむね好評の声をいただいているところでございます。

**Q** さらに推し進めていくうえでの問題点はありますか？

**A** 公共プール等の利用につきましては、受入れ可能な施設が限られていることや、移動手段として利用いたしますバスの確保が難しいことなどの課題があります。

**坂元のみちたか**の目  
公共プールなどを利用しました水泳の授業については、確実に現場の教職員の負担軽減につながることであり、コストの削減効果も大きいです。我が会派は、現状を見直して、やめるものはやめ、効率を上げ、コストを削減し、新たな予算を生み出し、そしてまた、職員の皆様の仕事を楽にしていこうという立場。教育委員会には、現在の取組を通し、課題を検証し、引き続き公共プールを利用した水泳授業の拡大に向けた検討を進めていただくよう要望していきます。

市政報告だより

Vol. 01.1

令和6年4月1日発行

## 伝統は未来のために

豊平区

札幌市議会議員

日本維新の会会派 会長

さかもと

# 坂元みちたか

[プロフィール] 昭和42年9月5日生。札幌第一幼稚園、札幌市立中の島小学校、札幌市立平岸中学校、札幌市立藻岩高等学校、北海学園経済学部卒業。中の島小学校 PTA 会長、中の島中学校 PTA 会長、平岸地区民生委員、平岸地区青少年育成委員、など歴任。



## 市議会の大きなトピック ① オリンピック招致停止へ!

**坂元のみちたか**の目

オリンピック・パラリンピックの招致運動が「停止」されることとなりました。「停止」という言葉が使われましたが、すでに招致関連の組織は解散されこれは事実上の「中止」となります。招致することにはプラスの面もありましたが、市民の反対の声が大きかった中、概ね妥当な判断だったのではと考えます。

## 市議会の大きなトピック ② 敬老パス制度改正、3年～5年の経過措置を設けることに

**坂元のみちたか**の目

市長からは今すぐ変更するのではなく、時間をかけて意見を聴きより良い制度にしていく旨の発表がなされました。

新しい制度設計に対しては、① 持続可能な制度設計になっているか？ ② 世代間の負担に公平感はあるか？ ③ メリットが一部層に集中していないか？ ④ かねて要望が大きいタクシー利用はどうか？ ここに着目ししっかりと意見の発信をしてみたいです。

【会派の構成】 1.自由民主党 25名 2.民主市民連合 16名 3.公明党 10名 4.共産党 7名 5.日本維新の会 4名 6.山口かずさ 1名 7.未来さっぽろ 1名 8.大地さっぽろ 1名 9.市民ネットワーク 1名 ※令和6年3月31日現在

## 芸術鑑賞事業 関連の質疑を抜粋



Q 芸術鑑賞促進事業の対象分野をクラシックにしている理由は？

A 市で実施をしております文化芸術意識調査におきまして、今後、本市が力を入れて振興すべき分野でクラシックが上位にあること、また、クラシック鑑賞者の年齢層は60代以上の方が多く、鑑賞者の裾野拡大が課題であることが挙げられるところでございます。

Q しかし、クラシック同様、能楽などの伝統芸能の分野も同様に鑑賞者数が伸び悩んでいるというふう聞いておりますが？

A 一般的に触れる機会が少ない能楽では、まずは、能楽そのものを知るきっかけが必要との考え方から、公益財団法人札幌市芸術文化財団と連携をいたしまして、能を演じながら学ぶことができる小・中学生のワークショップを実施しているところです。鑑賞者の裾野拡大に当たりましては、低料金という切り口のほかに様々な方法が考えられますことから、この事業にとどまらず、関係団体と連携をいたしまして、効果的な手法について検討してまいります。



坂元の目

市民の中には多様な嗜好があり、平等性、公平性というものを重視される市民が多いと感じます。そういった視点も持ちながら芸術鑑賞事業の推進をしていくべき。

## 1 多文化共生 関連の質疑を抜粋



Q 国際観光都市を目指す札幌市として、様々な表記で多言語化を進めていくのは、物理的な限界があり、困難なのではとも考えますが、その点はどのように考えていますか？

A 国際部では、外国語表記ガイドラインを作成しているところでございます。ガイドラインを作成している言語は、英語、中国語の簡体字、ハングルの3言語でございますが、今後はこれまで進めてきた多言語対応を継続いたしますと

もに、難しい言葉を易しい日本語に言い換えたり、文章のつくりを簡単にした「やさしい日本語」による情報提供を充実させることにより、外国人にも優しい環境を整えてまいりたいと考えています。



坂元の目

「国際観光都市を目指す」これは掛け声だけでは実現困難です。隣国だけではなく、東南アジアから、ヨーロッパから、北米から、南米から、中東から、アフリカから、世界中から、様々な国から札幌を訪れてくださる、それを実現するためには、我々が準備する言語は重要です。これから札幌が国際都市として世界中の国々、人々から認められるよう、表示言語をどのように工夫するとよいか、今後も表示言語の調査研究、工夫を要望していきます。



## 2 職員の働き方改革 関連の質疑を抜粋

Q 職員の皆様が意欲を持って働くことができるような環境づくりについて、今後どのように取り組んでいきますか？

A それぞれの職員が持てる能力を最大限発揮できるよう、柔軟で働きやすい環境の整備に向けた取組を進めているところでございます。具体的には、テレワークが可能となるノートパソコン型の業務端末をアクションプラン期間中に現在の1,000台から8,500台に拡大するなど、どこでも支障がなく業務ができる環境づくりを進めていく考えです。加えて、時差出勤制度や在宅勤務制度の柔軟化に向けた検討を行うほか、働き方改革の必要性を管理職に浸透させていくなど、ツール及び意識改革の両面から、職員が意欲的に最大限のパフォーマンスを発揮できる職場環境の整備を進めていきたいと考えております。



坂元の目

ツールや意識改革の他にもしっかりと取り組んでいただきたいことがあります。それは、抜本的に業務自体を精査し、時代背景や価値観の変化などから不要と思われる事業は、しっかりと勇気を持って事業の断捨離をしていくということ。ここが、我が会派が最も強く打ち出していきたいポイントになります。札幌の人口も増加期は既に終わり、中期予想では2割減という試算もあります。足し算を重視する行政から引き算を重視する行政に、思い切った断捨離を断行していくことを要望していきます。